

これまでのヒアリング結果概要

○農業、まちづくり会社

- ・都市部の新電力会社から電気を購入している。営業を受けて安価だったから。
- ・給湯用にガス、暖房用に灯油、農業機械・農業車両用に軽油やガソリンを使用。
- ・農産物や加工品の製造、販売をしている。良いものを提供したいという理念からも脱炭素に向かうべきだが、資金的に優先順位低い。太陽光パネル無償設置（PPA）があるとありがたい。

○太陽光発電事業者

- ・松江に太陽光発電所を構えている。パワコンを10年で交換など事業性が高いとは言えない。
- ・再エネ地産地消に向けて、今は自家消費がベターだと思う。製造業とマッチングしては？

○太陽光パネル等設置事業者

- ・市「太陽光発電システム等設置費補助金」活用者から受注し住宅にパネル、蓄電池など設置。
- ・見るからに市民の電気代が高騰している。EVに切り替え、V2H（ビークルトゥホーム）を使うと上手に電気代をやりくりできる。60kWh（例：日産リーフ）で6日間生活ができる。
- ・国内でも、ビルや公共施設などでV2X（ビークルトゥ〇〇）が積極的に検討されている。

○木製品製造業者

- ・電気小売に参入した大手企業から電気を購入している。料金が高騰し、去年の倍に。
- ・毎月多くの廃材が出て、お金をかけて廃棄している。有効活用できたら。
- ・検品ではじかれたものは廃棄している。薄い棒状の物なので、着火剤として使えると思う。

○バイオ炭製造事業者

- ・市の木でありながら地域課題になっている竹を切り出し、炭にしている。これを農地に施用すると、CO₂が大気に出ない（炭素貯留）し、土壌改良剤にもなる。
- ・バイオ炭施用によるCO₂削減効果は、国が認証済み。環境価値としてクレジット化された。
- ・製炭のキャパシティは、山陰、おそらく中国地方でも随一。しかし、現状は作ったバイオ炭を自社の農地に施用するのみ。バイオ炭自体が無名のため、売り先がまだ見つかっていない。
- ・竹や木のほか、草、もみ殻、稲わら、家畜ふん尿、下水汚泥もバイオ炭化できる。

○カフェ、旅館

- ・普段から地元産の米、野菜、果物などの調達を心がけている。
- ・（バイオ炭の農地施用の話について）かなり興味深い。そこでできた農作物を店で扱えたら、ストーリー性がある。かつ、再エネ発電から充電したEVで輸送できると更に高付加価値。

○交流センター

- ・薪ストーブ等が拡大し、里山の整備につながればと思う。田舎暮らしを好むIターンも多い。
- ・再エネ普及啓発のためのイベントを地域でできると良い。
- ・元大学教授が地域に住んでいて、付近に小水力発電に適した川があると言っていた。

●特殊鋼関連企業にヒアリング未実施